

2026 年度 東京有明医療大学 看護学部 看護学科
学校推薦型選抜/社会人選抜 基礎学力試験 問題用紙

| | | | |
|------|--|----|--|
| 受験番号 | | 氏名 | |
|------|--|----|--|

【問 1】以下の説明文を読み、後の問いに答えなさい。

糖尿病は、個人の遺伝的要因に加え、食生活、運動不足、喫煙などのカンキョウ_(a)要因が複雑に関与して発症する。糖尿病には 1 型糖尿病と 2 型糖尿病があるが、以下、2 型糖尿病について述べる。

食物として摂取された炭水化物は、消化管で最終的に単糖類（主にグルコース）に分解、吸収されて血中に入る。これ₍₃₎により血糖値が上昇すると、膵臓_(b)から分泌されるホルモンであるインスリンが、グルコースをエネルギー源として利用するために細胞内へ取り込むよう促し、血糖値が調整される。

しかし、運動不足は、細胞、特に骨格筋細胞におけるインスリン抵抗性を高める。インスリン抵抗性とは、インスリンが細胞表面にあるインスリン受容体に結合しても細胞内へのシグナル伝達スムーズに行われず、細胞内のグルコース輸送体を細胞膜に移動させる効率が低下している状態である。その₍₄₎結果、グルコースの血中濃度が下がらず、高血糖状態がマンセイ_(c)化することで糖尿病の合併症のリスクを高める。糖尿病の合併症には、神経障害、腎機能の低下、動脈硬化_(d)などがある。

一方、適切な運動、特に筋収縮を伴う運動は、インスリンとは異なる経路で輸送体を細胞膜へ移動させ、血糖の利用を促進する。この作用は、インスリンの効き目を一時的に高め、インスリン抵抗性を軽減する。このため、適切な運動は、これらのリスクを軽減し、心臓血管系の健康維持に不可欠である。

(1) 下線部(a)～(d)のカタカナを漢字に、漢字の読みをひらがなで答えなさい。

(2) 説明文に照らして以下の各文の正誤を答えなさい。

- A. インスリンは、血糖を上げるためのホルモンである。
- B. 1 型糖尿病は、細胞のインスリン抵抗性が高まることで起こる疾病である。
- C. 炭水化物は、消化管でインスリンの働きによってグルコースに分解され、血中へ吸収される。
- D. インスリン抵抗性は、細胞が血糖を取り込む効率を低下させる。
- E. グルコースは、細胞表面のインスリン受容体によって細胞内に取り込まれる。
- F. グルコース輸送体は、インスリンによってのみ細胞内から細胞膜に移動する。

(3) 下線部の「これ」が指す内容を本文中の言葉を用いて簡潔に述べなさい(50 字以内)。

(4) 下線部の「その」が指す内容を本文中の言葉を用いて簡潔に述べなさい(70 字以内)。

(5) ある病院で調査したところ、運動習慣のない成人 1,000 名のうち 300 名が糖尿病予備群と診断されました。この 1,000 名の集団から無作為に 1 名を選んだとき、その人が糖尿病予備群である確率を計算式とともに四捨五入により小数第 2 位まで求めなさい。

(6) この文章で示されている運動の生理学的効果を踏まえ、糖尿病の患者に「運動習慣」の獲得を推奨すべき理由を 50 字以内で述べなさい。

【問2】以下の資料は、ある地域の過去5年間にわたる高齢者の入院トレンドを示すデータの一部と、当該資料に関する地方議会議事録の抜粋である。これらの資料をもとに以下の問いに解答しなさい。

資料1

| 項目 | 5年前(20XX年) | 今年(20XY年) | 変化の傾向 |
|--------------|-------------|-------------|------------|
| 地域の65歳以上人口 | 10,000人 | 11,000人 | 増加(+10%) |
| 入院総件数(65歳以上) | 800件 | 900件 | 増加(+12.5%) |
| 入院原因:感染症 | 300件(37.5%) | 400件(44.4%) | 件数・割合ともに増加 |
| 入院原因:転倒・骨折 | 150件(18.8%) | 140件(15.6%) | 件数・割合ともに減少 |

資料2

(X議員)この地域の医療資源を最適化するためには、地域全体の高齢化が進む中、入院原因として最も多い「感染症」対策に予算を集中させるべきだ。転倒・骨折については、長年の地域活動によって割合が減少しており、予防可能なことから、今後は住民の自己努力に任せるべきである。

- (1) 資料2の議員の主張(「感染症対策に予算を集中し、転倒・骨折対策は自己努力に任せるべき」)を、資料1のデータを用いて補強しようとする記述として、論理的整合性が最も低いものを一つ選び、記号で答えなさい。
- A. 感染症は、件数(400件)だけでなく割合(44.4%)も増加しており、地域のリスクが高まっているため、最優先すべきである。
 - B. 転倒・骨折による入院は、高齢者人口が10%増加しているにもかかわらず、件数自体は10件減少しており、対策の優先度を下げる根拠となる。
 - C. 入院総件数の増加率(12.5%)は、高齢者人口の増加率(10%)を上回っており、医療資源不足解消のため、対策を感染症に集中すべき論拠となる。
 - D. 長年の活動により転倒・骨折の割合が減少した結果、この対策は公的リソースの支援がなくても今後も自己努力によって継続可能である。
- (2) 資料2の議員の主張は、「転倒・骨折対策は住民の自己努力に任せるべき」としています。この主張に対し、本学看護学科のアドミッションポリシーである「他者への関心」とどのように結びつくか、健康を左右する「社会的決定要因」(例:低所得による住宅の段差解消や手すり設置の困難、独居や老老介護による見守りや介助の不足など)という言葉を用いて50字以内で説明しなさい。

【問3】以下の説明文を読み、後の問いに答えなさい。

あなたは、病院内で重い疾患による認知機能の低下が見られる患者Yさんと、その家族の置かれている状況を知りました。Yさんは「家に帰りたい」という強い意向を示していますが、退院基準を満たしている一方で、家族は「症状の進行と介護の負担から、自宅での介護は困難である」と拒否しています。

- (1) 患者Yさんが置かれている状況において、「家に帰りたい」という強い意向の背景として、どのような思いがあると考えますか。後押しする要因と抑制する要因それぞれについて15字以内で記しなさい(句読点不要)。
- (2) 患者Yさんの家族が自宅での介護を困難とし、退院を拒否している理由として、最も現実的かつ複合的な要因を次の選択肢から一つ選びなさい。
- A. 家での療養に必要な介護サービスの費用が捻出できないため、経済的な負担が大きい。
 - B. 家族の仕事や生活習慣を優先したいので、患者の家庭での療養を妨害だと感じている。
 - C. 患者Yさんの病状が進行し、家族だけで必要な医療的ケアと安全性の確保ができない。
 - D. 家族内で介護の方針が対立しており、最終的な合意事項がいまだに見出せないでいる。
- (3) 上記の状況を踏まえ、患者Yさんの尊厳と、ご家族の介護の負担という二つの重要な要素に対しどのように向き合いますか、あなたの看護への志(倫理的信念)を100字以内で述べなさい。